

平成24年度和裁士技能検定(1級) 学科試験解答

実施日：平成25年3月10日
 所用時間：90分

1. 下記の () に適当な語句を入れて文章を完成させなさい。(配点10点)
- 女物長着の袖丈は羽織の袖丈よりも (長く)、男物羽織の袖丈は同寸又は (長い)。
 - 被布衿コートには襷は付かないが、子供物被布には襷は (付く)。
 - 本裁長着の紋位置は、背紋は衿付けより (5.7cm (1寸5分))、袖は袖山より (7.5cm (2寸))、抱きは肩山より (15cm (4寸)) 下がったところである。
 - 身長170cm (4尺5寸) の男子用袴の紐下寸法は (85 ~ 88cm (2尺2寸4分 ~ 2尺3寸5分)) 位が適当である。
 - 男帯 (角帯) の帯丈は (4.0 ~ 4.2cm (1丈0尺5寸 ~ 1丈1尺0寸)) である。
 - 魚子織 (ななこおり) とは (平織風) の帯地である。
 - 村山大島は (東京) が産地である。
 - 長襦袢の仕立てで、鳩胸の人は前が下がるので、身八つ口に (タック) をとるとよい。
 - 打掛の下に締める帯は (掛下帯) である。
 - お宮参りの初着の袖は、(大名袖) である。

2. 次の文を読んで、正しいものには○、誤っているものには×を付けなさい。(配点5点)
- (○) 女物細入れ長着の寸法、用尺、裁ち方、へら付けは女物袷長着と同じでよい。
 - (×) 袴天の裾折り返しは、後身頃より前身頃の方を多くする。
 - (○) 無双羽織の胴接ぎは前裾か肩山である。
 - (○) 井戸の井の字を圖案化したものを井桁文様という。
 - (×) 唐草模様は日本古来のものである。

3. 和服の寸法と身体各部の寸法の関係について、下の例にならって記入しなさい。(配点5点)
- 《例》本裁女物長着の身丈 → 身長と同寸を基準とする。
- 本裁女物長着の衿肩明 → 首のつけ根回り×1/4 を基準とする。
 - 本裁女物長着の裷下 → 身長×1/2 を基準とする。
 - 本裁女物長着のゆき → 身長×0.4+2cm を基準とする。
 - 本裁男物長着の身丈 → 身長-26 ~ 27cm又は身長×0.83 ~ 0.85 を基準とする。
 - 本裁女物長襦袢の身丈 → 身長-27 ~ 30cm又は身長×0.8 ~ 0.83 を基準とする。

4. 次に挙げる左側の語句のふりがなを () の中に記入し、右側の説明文で関連のあるものを線で結びなさい。(配点10点)
- 直垂 (ひたたれ) 1. 平安時代公卿の日常着である。
 晴装束 (はれしょうぞく) 2. 宿直装束ともいい、東帯の略装である。
 素襖 (すおう) 3. 女官の正装で女房装束或いは、十二単ともいう。
 直衣 (のうし) 4. 形は、大紋と同じであるが紋のないものをいう。
 衣冠 (いかん) 5. 武士が鎧下に着用したもので、後に武士の公服となった。

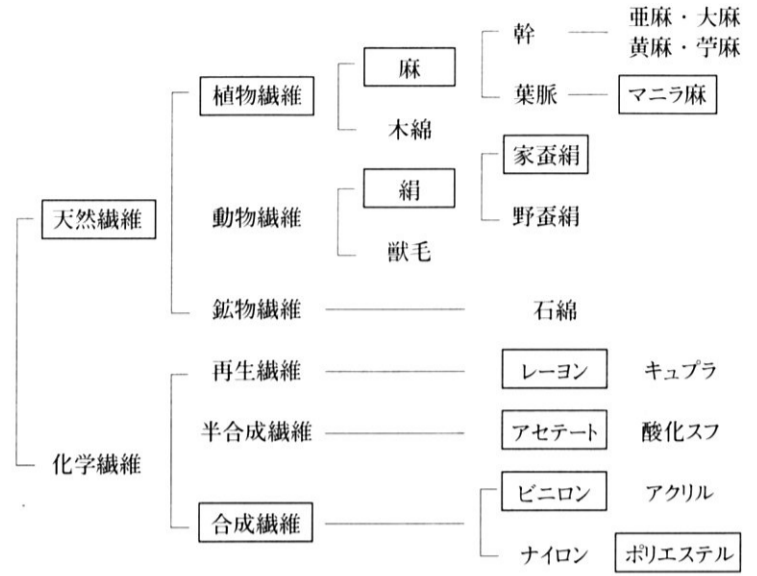
5. 道行コート以外の変り衿コートの名称と前から見た図を3種類書きなさい。(配点 名称は各1点、図は各2点)
- (1) (都衿コート) (2) (千代田衿コート) (3) (道中着衿コート)
-

6. 次の図は、男物行灯袴の完成図であるが、①~⑮の名称を記入しなさい。(配点15点)
-
- 前腰巾
 - 笹ひだ
 - 相引
 - 紐下
 - 一のひだ
 - 前脇幅
 - 裏腰
 - 前紐
 - 後紐
 - 投げ
 - 玉ぶち
 - 付菱
 - 後腰巾
 - 腰板
 - 後巾

7. 下の表は、和服の紋下りを記したものです。表を完成させなさい。但し、cm又は鯨尺でもよい。(配点5点)

名称	本裁男女	四つ身	一つ身
背紋下り (衿付けより)	5.7cm	4.5cm	4cm
袖紋下り (袖山より)	7.5cm	6.5cm	6cm
抱き紋下り (肩山より)	15cm	13cm	11cm
	4寸	3寸5分	3寸

8. 下の表は繊維の分類を示したものです。表を完成させなさい。(配点11点)



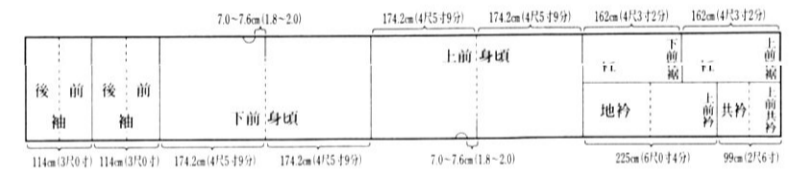
9. 次に挙げる家紋の名称を下記語句から選び該当する欄にその記号を記入し、それぞれふりがなを付けなさい。(配点10点)

【語句】 ① 葛 ② 上り藤 ③ 下り藤 ④ 笹籠胆 ⑤ 左三巴
 ⑥ 右三巴 ⑦ 横木瓜 ⑧ 九曜星 ⑨ 花菱 ⑩ 剣片喰

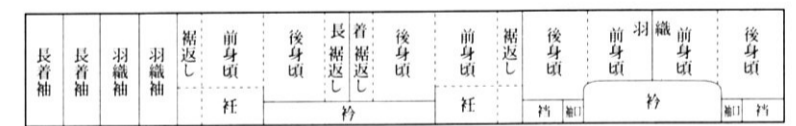
紋の記号	A	B	C	D	E
語句	9	1	7	3	4
ふりがな	はなびし	つた	よこもっこう	さがりふじ	ささりんどう

10. 次の5問について、各部分を寸法に応じ配分し、その名称をよく分かるように記入して裁断図を書きなさい(裁ち切りは実線、折り山は点線で記入)。(配点各問4点)

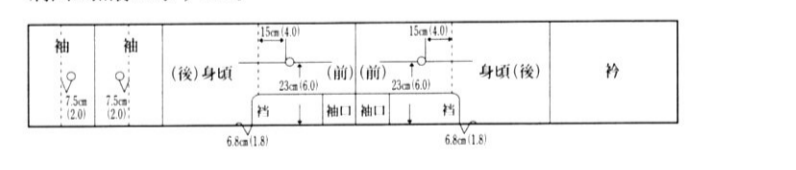
① 並幅物12m50cm (3丈3尺) の反物で、一つ紋付本裁女物長着を下記指定寸法で追い裁ちをしたい。裁断図および各部の寸法と名称、紋の位置を記入しなさい。
 身丈背より出来上がり165cm (4尺3寸5分)、袖丈出来上がり53cm (1尺4寸)、繰越2.6cm (7分)、裷下 (衿下) 出来上がり81.5cm (2尺1寸5分)、他は標準寸法とする。
 (注) 袖の前後、上前身頃、上前衿、上前共衿、上前衿裾などの位置を明記すること。



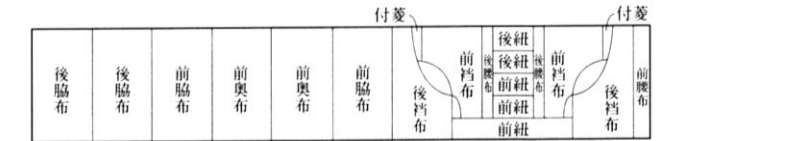
② 並幅物15.2cm (4丈) の反物で、四つ身長着 (共裾) と羽織を裁ちたい。その裁断図を記入しなさい。



③ 並幅物11m (2丈9尺) の反物で本裁男物五つ紋付羽織を作りたい。裁断図と紋の位置を記入しなさい。但し、紋の位置はよく分かるように寸法を明示すること。袖山、肩山は点線で示すこと。



④ 並幅物10m (2丈6尺4寸) の袴地で男物襦袢付袴を作りたい。裁断図を記入しなさい。



⑤ 並幅物11m (2丈9尺) の表地で千代田衿袴半コートを作りたい。裁断図を記入しなさい。但し、小衿のみ用尺を記入しなさい。

